

本文が和文の場合の様式。

上余白：35mm。

※タイトルは1行目から始め、タイトル上部の余白を35mm以上とらない。

この位置にタイトル

副題

1行あける。

名前

メールアドレス [※記載しなくてもよい]

1行あける。

キーワード： 東京大学大学院 人文社会系研究科 文学部 言語学研究室

東京大学言語学論集

1行あける。

要旨

左右余白：30mm。

要旨部分の左右余白：30mmより多くとる（左右約2字分ずつ中寄せする）。

ここに要旨本文が入ります。

要旨本文は、明朝、9ポイント、左寄せとする。

要旨部分は、左右約2字分ずつ中寄せすること。※1行の文字数を、9ポイントの大きさで約42字とし、左右の余白を均等にとれば、そのようになります。

1～1.5行あける。

1. はじめに

ここから下に本文が入ります。

本文は、明朝、10.5ポイント、左寄せとする。1行の文字数は、10.5ポイントの大きさに42字程度とする。1ページあたりの行数は36行とする。

注は、明朝、9ポイント、左寄せとする。1行の文字数は、9ポイントの大きさに47字程度とする。注番号は半角とし、番号にカッコをつけない。脚注とする。

句点は[.]、読点は[,]または[,]を用いる。本文中の数字のフォントは適宜統一する。

欧文（半角）表記は、原則として、和文の「明朝」に該当する部分（主に本文）を「Times New Roman（またはTimes系書体）」とし、和文の「ゴシック」に該当する部分（主に見出し）を「Arial、太字(bold)」とする。

下余白：25mm。

コメント [A1]: タイトル：ゴシック、16ポイント前後、中央。

コメント [A2]: 副題をつける場合はポイントを下げる（明朝、12ポイント前後、中央）。

コメント [A3]: 名前：明朝、12ポイント、中央。

コメント [A4]: メールアドレス：書体自由、10.5ポイント、中央。記載するかどうかは自由。

コメント [A5]: 「キーワード」見出し：ゴシック、10.5ポイント、中央。

コメント [A6]: 「キーワード」の内容：明朝、10.5ポイント、中央。2行にまたがる場合は、1行目と先頭を揃える。

コメント [A7]: 「要旨」見出し：ゴシック、10.5ポイント、中央。

コメント [A8]: 章見出し：ゴシック、10.5ポイント、左寄せ。

本文が
和文の
場合の
様式。

参考文献

Bloomfield, Leonard (1933) *Language*. New York: Holt.

Haegeman, Liliane (1994) *Introduction to government and binding theory*. Second edition. Oxford: Basil Blackwell.

服部四郎 (1976) 「上代日本語の母音体系と母音調和」 『言語』 5(6): 2-14.

Jakobson, Roman, Gunnar Fant and Morris Halle (1963) *Preliminaries to speech analysis: The distinctive features and their correlates*. Cambridge, MA: MIT Press.

金田一京助 (1932) 『国語音韻論』 東京: 刀江書院.

金田一京助 (1955) 「アイヌ語」 市河三喜・服部四郎 (編) 『世界言語概説』 下: 727-749. 東京: 研究社.

Kiparsky, Paul (1968) Linguistic universals and linguistic change. In: Emmon Bach and Robert T. Harms (eds.) *Universals in linguistic theory*, 171-202. New York: Holt, Rinehart and Winston.

Lakoff, George (1986a) *Women, fire and dangerous things: What categories reveal about the mind*. Chicago: University of Chicago Press.

Lakoff, George (1986b) Cognitive semantics. Berkeley Cognitive Science Report 36.

Lakoff, George and Mark Johnson (1980) *Metaphors we live by*. Chicago: University of Chicago Press.

南西太郎 (2005) 「南西語音韻論研究」 博士論文, 南西大学.

Postal, Paul (1970) On the surface verb “remind”. *Linguistic Inquiry* 1: 37-120.

Sag, Ivan (1976) Deletion and logical form. Unpublished doctoral dissertation, MIT.

佐久間鼎 (1941) 「構文と文脈」 『言語研究』 9: 1-16.

柴谷方良 (1978) 『日本語の分析』 東京: 大修館書店.

Trubetzkoy, N.S. (1971) *Grundzüge der Phonologie*. 5. Auflage. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.

1~1.5 行あける。

この位置 (参考文献の後) に十分なスペースがあり、同一ページ内に英文要旨とそれに続く執筆者名が全て収まる場合には、この位置に英文要旨を入れてください。そうでない場合には、この部分を空白とし、次のページの 1 行目から英文要旨を始めてください。レイアウトやフォントについては以下をご参照ください。

コメント [A9]: 「参考文献」見出し: ゴシック、10.5 ポイント、左寄せ。

コメント [A10]: 参考文献の書体・文字サイズ等は、本文に準ずる。文献 1 件が 2 行以上にまたがる場合は、2 行目以降の先頭を 2 字分ほど下げる。

参考文献の表記は、原則として日本言語学会の『言語研究』または Linguistic Society of America の *Language* の様式に従う。

※ここに記した文献表記の見本は日本言語学会の公式サイトに示された『言語研究』執筆要項 (2011 年 6 月改訂) より引用した。

<http://lsj.jpn.org/LSJ2010s/j-gkstyle2010.pdf>

本文が
和文の
場合の
様式。

Main Title of the Paper: Subtitle

1 blank line

Author's name

Email address (if desired)

1 blank line

Keywords: The University of Tokyo, Department of Linguistics, Graduate School of
Humanities and Sociology, Faculty of Letters, TULIP

1 blank line

Abstract

Abstract text here. Font 10.5-point Times New Roman.

1 blank line

(なまえ 所属 [※所属は記載しなくてもよい])

コメント [A11]: タイトルと副題の英語表記: Arial, 16pt, centered.

コメント [A12]: 名前: Times New Roman, 12pt, centered.

コメント [A13]: メールアドレス(記載するかどうかは自由): Times New Roman, 10.5pt, centered.

コメント [A14]: キーワード見出し: Arial, 10.5pt, centered.

コメント [A15]: キーワード: Times New Roman, 10.5pt, centered.

コメント [A16]: 要見出し: Arial, 10.5pt.

コメント [A17]: 名前は平仮名または片仮名で「姓 [family name]・名 [first name]」のように表記する。明朝・10.5 ポイント。

コメント [A18]: 名前の後 1 文字分スペースをとり、所属を表記する。記載するかどうかは自由。明朝・10.5 ポイント。